



平成 30 年 4 月 13 日

関係者 各位

一般財団法人  
日本モーターサイクルスポーツ協会  
ロードレース委員会

## 2018 年度 国内競技規則書の規則追加と解釈について

### ピットの作業、車両交換の解釈について

規則の内容を明確するために、下記の解釈とする。

- ・決勝レース（サイティングラップスタートからレース終了まで）のピットにおける車両整備調整等のすべての作業および車両交換（JSB1000 のスペアカー登録車両を使用する場合は、事前に作業エリアに準備すること。）は、自己のピットボックス前の作業エリアとする。ピットボックス内での作業、車両交換はリタイヤと判断される。

該当規則：付則 4 17 スタート方法

(p101)

規則の追加： 語句の追加 アンダーライン部 青字部分

17-4-3 スタート10分前（サイティングラップ終了）

レッドシグナル点灯でピットレーン出口が閉鎖される。サイティングラップは義務づけられない。サイティングラップに参加しないライダーは、ウォームアップラップ開始 5 分前まではオフィシャルの指示に従って自分のマシンをグリッドに押して行くことができる。

サイティングラップ中に技術的なトラブルに見舞われたライダーは、ピットレーンに戻って調整またはマシンの交換（JSBクラスのスペアマシン登録車両のみ。以後同様）を行うことができる。

この場合、当該ライダーはピットレーンからウォームアップラップを開始しなくてはならない。

以下・・・省略

該当規則 付則 4 21 レース中およびプラクティスセッションの行為

(p107)

21-2 ピットイン

ライダーはレース及びプラクティス中にマシンの調整やタイヤ交換のためにピットに戻ることができる。

レースにおいては全ての作業またはピットボックス前のピットエリアにて行われなければならない。

ピットボックス内の作業はレース中断によるインターバル時、または予選時のみ行うことができる。

予選中のピットボックス内での作業はリタイヤ扱いとならないが、レース中のピットボックス内での作業は当該レースからリタイヤしたものと判断される。

※ピットとは車両の修理、調整、部品交換、燃料補給などの作業を行うことを目的に、ライダーに与えられた区域である。

21-2-1

ピットインする車両のライダーは、ピットレーン入口手前よりピット側に車両を寄せ、手または足でピットインの合図を行ったのち、安全を確認して正規のピットレーン入口から進入し、徐行しなければならない。

ピットエリア（ピットボックス前の作業エリア）を走行することは禁止される。